

「川西市立幼稚園・保育所のあり方」
これまでの ご意見・ご提案 と 対応 について

論点1		市立幼稚園・保育所の役割についてどのように整理するか			
	項目	内容		対応	
1	幼稚園	全般	市立幼稚園はなぜ子どもが集まらないのかをまず考え、その課題を明白にした上で各園個別に対応策を考えるのがよいかと思う。園によっては課題を解決することで利用者が増える所もあるだろうし、それでもなおかつ、問題の残るところについては他の道を考える。 選択肢としては ①三歳児クラスを増設して継続 ②保育園として生まれ変わる ③民間委託 ④廃園 etc.	平成25年に実施したアンケート調査の結果においても、委員の皆様のご提案と同様、3歳児保育、給食、保育時間拡大などが取り組むべきこととして上位に挙げられており、これらのニーズへの対応を踏まえ、幼稚園のあり方について検討を進めています。	
2	幼稚園		存続の必要はあるが、大きな転換が必要。定員縮小(職員削減)、保育領域の拡大など思い切った改革を(ただし、市民は3歳児保育を望んでいる)。		
3	幼稚園	3歳児保育の実施	公立幼稚園が定員割れしているのはよく分かっているのですが、加茂幼稚園が3年になって定員が増えたのであれば、3年にしていただけたらと思います。	3歳児保育のみの導入を市立幼稚園で拡大することは、先の会議での説明のとおり、私立幼稚園との協力・補完の観点、また児童数が減少する見通しの中での教職員の増員、園舎の改修等が必要となることなどを考えあわせると慎重に検討する必要があります。幼稚園の再編計画の中で検討を進めています。	
4	幼稚園		加茂幼稚園で3歳児保育をすると、ある程度定員を充足しています。他の公立の幼稚園では3歳児保育がなぜできないのか。3歳児保育をして、ある程度定員を充足して、耐震工事等をすると意義はあると思います。		
5	幼稚園		前回の会議の中で、公立幼稚園の3年保育導入についての考え方を聞かれていた委員がおられましたが、その方向性については、事務局(教育委員会)からはあまり具体的な考え方は示されなかったように思います。 私立幼稚園との関係もあるのかとも思いますが、もう少し市としての考え方を示してほしいと感じました。		
6	幼稚園		公立の幼稚園が3年保育を実施するという事は、アンケート結果でも幼稚園教育を求める保護者が多いと出ていたので、そこに質の高い教育を求めてくる方が多いと思います。 その意味は、公立と私立の幼稚園が培ってきたことが大事にされてきたことが浸透しているのだと思います。 3年保育を実施するときに私立幼稚園との園児数のバランスも一つは大事だと思います。その中でやってきたバランスなのか、3年保育に市の資金が投入できずに来たバランスなのか、その要因も探りながら公立を3年保育にしていくことを考える。		
7	幼稚園		公立幼稚園の定員が少なくなっている理由に、3年保育の私立幼稚園に入れる保護者が増えたからだと思うので、公立幼稚園でも3年保育を実施すれば、定員も増えてくるのではないのでしょうか？ 保護者代表だけでなく、もっとたくさんの保護者の方からも意見を聞くべきだと思います。		
8	幼稚園		全国的幼稚園のほとんどが長時間の預かり保育を実施しています。 そのニーズがある中で、幼稚園教育要領の第1章にも預かり保育の教育の意義が書いてあるのは、今の就学前の教育の中で幼稚園にも預かり保育をすることを考えましようということだと思います。 そういう意味でも川西市の公立幼稚園が預かり保育をしていないということも、今から変えていける部分ではないでしょうか。		預かり保育における教育活動内容の検討やニーズ把握を行ってきました。平成27年度に試行実施をする予定としています。
9	幼稚園		課題を抱える家庭の対応		特別支援が必要な幼児が増えている中で、そういう幼児への教育の提供、子育て支援、親育ちの場として、毎日の送り迎えで教師と話をしながら子どもの育ちや親の不安への対応をしています。
10	幼稚園	療育施設には入らないけれど、加配が必要な子どもが比較的公立幼稚園へ就園、入園を希望されている。公立幼稚園の存在意義は特別支援の部分で非常に強い存在意義を示しているのではないかと。			

11	幼稚園		公立幼稚園では一人一人の発達に応じて特性に合わせた保育、自発的に自分で選んで遊ぶ・動ける力を身に着ける保育を行っています。 小学校以降の生きる力の育成につながっているのではないかと。 また、小学校生活の先取りではなく、自分で考える創造的な思考とか主体的な態度の育成を培っています。	
12	幼稚園	教育・保育内容	幼稚園に入園希望の親は、料金ではなく教育内容を重視して園を選択する例が多いので、市立幼稚園の定員回復には教育内容改革が求められる。 それができないのであれば、認定こども園として保育要素を重視した方向への切り替えが望まれる。	これまで培ってきた教育・保育をより深め、さらには広げていけるよう、研修等の取り組みを続けていきます。
13	幼稚園 保育所		保育については公立幼稚園も保育所も同じように小学校に上がった時に主体的に動けるようにとか、家庭的な背景について考えているという土台は同じではないかと思えます。	
14	幼稚園		特色として小学校との連携というのはこれからどんどん進めていかなければなりません。児童のみの交流ではなく、教師同士の交流をしている園もあります。	
15	幼稚園 保育所	小学校との連携	小学校との連携をしていく部分が大きいかと思います。隣接していたり、その校区の小学校へ通うという事が多くあり、また、国の動きとして5歳児を義務教育にするとか無償化とか連続性をとかいう議論が始まりかけている中で、カリキュラムや保育と教育の内容の接続を考えていったときにリーダーになっていけるのは公立の幼稚園、保育所が立場としては必要です。	小学校との連携はさらに推進するべきものでありますので、積極的な関わりを持つよう取り組みを続けていきます。
16	幼稚園	地域のつながり	培ってきた歴史があり、前身は地域の自治会立、婦人会立のところもあり創立70周年を迎える幼稚園もあります。これまで、地域の幼稚園として根ざしてきた実績があります。	幼稚園と地域とは密接な関係性を持ち、今後も地域の施設として関わりを続けていきます。
17	幼稚園		市民の選択肢が増えるということは、公立幼稚園の存在価値や意義があるものと思っています。	
18	幼稚園		いろんな人の意見を聞いたのですが、どうして市立幼稚園の人氣がないのかという給食・バス・預かり保育ということが出ました。 逆に考えるとお子さんと手をつないで通園する時間を大事にする人は公立を選ぶだろうし、親のニーズが多様化している中で、公立幼稚園を選ぶ人もいるということも否めないということが出ました。	
19	幼稚園	ニーズの 多様化	幼稚園・小学校・中学校・行政との連携を考えると、公立幼稚園の役割はありますので、園児が少ないから無くすのではなく、選択肢の一つとして保護者や子どものニーズに対応する形として残してほしい。	ニーズが多様化している中で、市立幼稚園に通う園児数は漸減傾向にあります。適正な学級規模や学級数に留意しながら市立幼稚園へのニーズに応えていく必要があります。
20	幼稚園		教育内容や料金面で公立の良さはあるものの、やはり多様化するニーズに対応できてこなかったのは公立であるがゆえの保守思考があったからではないか。柔軟性のある考え方で魅力的な園作りをすれば利用者は必ず増えると思う。 他の市町村に何百人もの幼稚園児が流れている現実を直視し、公民一体となって、川西市の子ども達は川西市の保育園や幼稚園に通わせたいという強い思いが大切。	望ましいあり方としては、より身近なところに子育て家庭の抱くニーズに沿う園があることと考えますので、市立の施設としてその役割を果たしながら、選ばれる園であることが必要と考えています。
21	幼稚園		多様化の進む現代社会では、子育て世帯のニーズも多様化している。多様な選択肢を作る必要はある。 採算性も無視はできないので、市立幼稚園は過渡期にあると思う。3歳児保育、認定こども園化の推進などの本格導入を望む。	
22	幼稚園	廃園・民間委託	市立幼稚園それぞれの状況に応じて、対応策は異なってくると思われるが、充足率が30%にも満たない幼稚園は、その地域に他に幼稚園が存在するのであれば、廃園という道を考えることも必要だろう。 ただその地域に保育園が足りないとなれば、幼稚園を保育園にして民間委託する方法も考えることが出来る。	子どもにとって、地域にとって、市の財政状況や今後の見通しなどを総合的に判断し、それぞれの園に最適な方策を取るよう、十分な検討をしていきます。
23	幼稚園	保育料	料金が安いということで助かるという保護者もいます、その一つを見ても簡単に市立を無くしたり、民営化してしまうのも良くないと思います。	市立幼稚園の役割を踏まえ、施設の配置については、市立幼稚園・保育所のあり方に関する基本方針・方策に基づいて一体化や集約化を図り、各園ごとに適正な方策を取っていきたいと考えています。

24	幼稚園	税金	一番気になるのが、6割近くが空きになっているという幼稚園をこのままにしていいいのかということです。 公立の幼稚園ですので、多額の税金が投入されているということからすると、そのまま看過することはできません。	入園児童数の減少、耐震・老朽化対策、待機児童にしっかりと対応しつつ、財源をより有効活用できる方策を各園ごとに検討し実施する必要があると考えています。
25	保育所	課題を抱える家庭の対応	公立保育所が担ってきた役目・責任というのは、いろいろな課題を抱えた子どもや家庭の受け皿として、支援を公立の良さとして、いろいろな公的なネットワークを活かして行うということが役目であると思います。	公立施設として、保育所・幼稚園・小学校の連携をさらに深め、様々な支援を必要とする家庭や児童に対応していかなければなりません。 また、本市の児童を健やかに育むという視点から、私立施設ともそれぞれの持つ独自性を保ちながら、協力・連携を深めていく必要があると考えています。
26	保育所		公立保育所同士ですごく連携されている常を感じています。同じ公立なので研修内容も同じく学ばれているし、そういう意味では、支援が必要な子どもであったり支援が必要な家庭に対する対応というところでは、公立保育所の存在意義というのは大きなものがあるのではないかと思います。	
27	幼稚園 保育所	保育所・幼稚園として存続	2012年8月、三党合意で児童福祉法24条1項が残りしました。これは、保育所保育の存在意義があることで残ったのだと考えます。このことから考えますと、公立保育所は、保育所そのまま残していくべきものだと思いますし、幼稚園もまたそのまま残すべきです。	子ども・子育て計画においても、保育ニーズに対応するため保育の定員を確保していくこととし、さらに保育の提供体制が不足する区域においては拡大していくこととしています。 一方で、幼稚園の利用については供給が需要を超えているという課題があります。

論点2	耐震老朽化対策と一体化について
-----	-----------------

		項目	内容	対応
1	幼稚園 保育所	議論について	市立幼稚園の定員割れ、保育所の待機児の問題、耐震化の問題等を考え合わせて、幼稚園と保育所を一緒にし、認定こども園化することで「子どもの最善の利益」が得られるのか等、他市の公立間の認定こども園の視察なども含めて、その上で十分に議論する必要があると思います。	この検討にあたって、私立・公立認定こども園の視察等を実施してきました。公立の認定こども園においても、運営面などに課題とされる点があるのは事実であり、その整理や改善を進めているという状況です。 川西市においても、解決すべき課題はありますが、常に「子どもにとってどうか」という視点を持って取り組んでいくことが必要であると考えています。
2	幼稚園 保育所		保育所の利用は保育に欠けるという要件が必要であり、認定こども園になると要件がなくなります。 地域に川西市の就学前の保育を受けられる施設として、保育所と幼稚園が一体化した認定こども園というのも考える方向としては大事ではないかと思います。 ただ、今すべてをそうするという事は論外だと思います。	認定こども園の大きな特徴の一つである、保護者の就労等の状況によらず利用ができるという点は、地域の児童を保育所か幼稚園かという施設の形態で分断することなく利用できるということにつながります。 この実施にあたっては、子ども・保護者・地域、その他様々な状況を整理する必要性があり、しっかりと検討をしなければいけないと認識しています。
3	幼稚園 保育所		市立保育所と幼稚園の今後の在り方について、これから本格的な検討に入っていく中で、公立保育所で働くものとして、毎年のようにたくさんの利用をしていただき、保育所の意義や責任を感じさせてもらっています。その中で今回の提案理由でもある施設の老朽化や耐震の問題については現場としても大きな検討課題と感じています。 その課題の解決策の一つが、認定こども園という形かとは思いますが、量の見込みや確保方策の数字だけでは、具体的にどの施設を認定こども園化し、どの施設に対して老朽化等の課題をクリアにしていこうとしているのかが見えにくいです。前回の会議の中でも意見が出たようにもう少し市の方向性を具体的に示して頂けたらと思います。	子ども・子育て計画(素案)の第6章に記載しています。

4	保育所	老朽化対策	市立保育所の老朽化の対応は、深刻な問題である。長期休暇もなく、日々大切な生命を預かっている保育所なので、安全で清潔な環境の確保のため、効率よく手抜きせず、子どもたちにとって安全で楽しい保育環境を整備することは急務である。	基本方針・方策を進め、各施設の状況に応じ、新設や必要な改修を行い、安全で安心、快適な環境を提供することをめざしたいと考えています。
5	保育所		(保育所施設が老朽化しているの) 自分の子どもが日々過ごす環境に対して不安を持って、預けるからにはいい環境をと思う保護者の気持ちはその通りだと思います。	
6	保育所		毎年定員をみだし、地域コミュニティとも密接な関係があり、その存在意義は大きい。経費はかかっても老朽化、耐震化対策を早期に進めるべきである。その際に、子どもの安全確保、環境保持も併せて考えてほしい。	
7	幼稚園 保育所	認定こども園	認定こども園という新しい形を市としてやっていくことについて、色々課題や問題点を聞いたり見たりしていることも事実ですが、保育所と幼稚園機能が一緒になったというような単純なものではなく、全く新しい一つの形態として関わる私たちが考え方を改めていかなければいけないと感じています。 ただ今までの保育所保育で培ってきた、子どもの生活を24時間から見えていくことや、遊びや生活の中で生きる力の基礎を培う教育をしてきたことなど基本的な考え方は大切にしていきたいながら、さらに充実させていかなければならないと思っています。 新しい形を取り入れる事は、とすれば私たち大人サイドで物事見てしまいがちになりますが、子どもにとってより良い環境を提供できるように市もしっかり環境を整えていってほしいと思います。	子どもや保護者・地域との関わりを密接に持ち、教育・保育の質を担うのは、第一に現場で接する幼稚園教諭や保育士をはじめとする職員です。また、これを支える様々な職員がその役割を担うことによって、はじめてその取り組みを推進することができます。 同じ市立とはいえ、別々に教育・保育を担ってきたそれぞれの考え方は異なる部分があると認識をしています。 一体化を進めるにあたっては、「子どもたちにとってどうか」という視点を常に持ちながら、関係職員がそれぞれの役割をしっかり担いつつ、一つの目標に向かって推進しなければならないと考えています。

資料提供	市立・私立幼稚園のバリアフリーの状況(障がい児保育)、夜間保育、延長保育、預かり保育等の特別なニーズのある保育についての状況をあわせてお示し頂きたい。	第4回資料5
	耐震工事にかかる費用と日数(期間)をご教示いただきたい。	第5回資料2
	保育所や幼稚園を赤字にしない為の分岐点(定員に対する充足率)をご教示いただきたい。	データがありません
	ぜひ、市立幼稚園・保育所の先生方が将来ビジョンを検討の上、ご意見や構想を策定の上、子ども・子育て会議に提出いただき様々な角度から検討し方向性を決めていきたい。	第7回資料8
	市立幼稚園・保育所が私立よりも優れている点、先進的に実施している点を整理して教えていただきたい。	第5回資料3
	どちらも活かすということで認定こども園となるのかと思うのですが、この新制度の認定こども園がどういったものかということをあまり知りません。従来との違いを教えてください。	第5回資料4
	阪神地区7市1町の公立保育所・幼稚園の状況(3年保育の状況、充足率、耐震化状況、存続状況等)や今後の方向性を調査頂き、比較一覧を作成願います。	第7回資料2
	市立幼稚園の存続について、前回の会議で3年保育への転換が難しいという説明があったが、改善の方策として具体的に何を考えているのか提示してほしい。	第7回資料1